

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 保育内容（言葉） 指導法 ナンバリング：2306	教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目	単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名：細田香織 担当形態：単独
科目／系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ／保育内容演習		
授業の到達目標及びテーマ 1. 領域「言葉」のねらい及び内容、全体構造を理解できる。 2. 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。 3. 自らの「言葉」を内省し、保育者としての言語環境の向上に努める姿勢を培うことができる。			
授業の概要 領域「言葉」について理解した上で、保育実習等の実践を経ての知見も含めた意見交換を行い学びを深めながら、主体的に学ぶ。保育者として子どもの「言葉」を受け止め、かかわり、子どもが主体的に言葉で表現できるような環境づくりができるよう、具体的な指導法について考える。			
授業計画 第1回：「言葉」の持つ力 - 自己肯定感と言葉の関係 - 第2回：保育における「言葉」とは - 領域「言葉」のねらい及び内容 - 第3回：領域「言葉」のねらいや内容を生かした指導案・週案の例（教材研究） 第4回：「言葉」の領域を意識した指導案を作成してみよう（ICTでの情報を用いて） 第5回：言葉を育てる保育者の役割と援助（小学校との接続～ICTでの情報を用いて～） 第6回：実習に向けて：保育者の言葉・子どもの言葉の観察の視点（模擬保育） 第7回：実習を終えて（報告交流会～指導案の振り返り～） - 子どもの言葉・保育者の言葉からの発見・学びの交流 - 第8回：「わたし」をつくる言葉（イヤイヤ期について） 第9回：乳幼児期の発達と言葉 第10回：コミュニケーション能力と発達の過程（脳科学等から） 第11回：好奇心の出現 - 質問期の子どもへの対応と保育の展開 - 第12回：より良い言葉がけ - 発達障害の子どもへの認知の特徴も考慮して - 第13回：お便り帳の意義と書き方（基本的考え方・注意点等） 第14回：児童文化財の活用 - 素話・絵本・紙芝居・幼年童話 - 第15回：保育者が自身の「言葉」の力を高めることの必要性とその方策 定期試験：筆記		授業時間外の学習 ・ 毎回、授業の最初に一人ずつ絵本の読み聞かせを行う。担当者は、必ず下読みをして準備をしてくること。（20分程度） ・ 授業の中で実習や保育現場でよく使う漢字や、敬語、差別語等の小テストを行うので時間外も学習すること。（30分程度） ・ 自らの言葉遣いを内省し、日常から用いる言葉を丁寧に、相手に伝わるよう意識して用いること。	
授業の方法 グループ活動、クラスでの意見の交流、ICTの活用もして授業を行う。 授業で集めたプリントやレポートには、赤でコメントを入れる等して返却する。			
テキスト 『子どもの育ちと「ことば」』横山真貴子編著 保育出版社			
参考書・参考資料等 『子どもとことば』岡本夏木著 岩波書店、『ことばと発達』岡本夏木著 岩波書店 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）			
学生に対する評価 授業への参加度（グループ討議・毎授業振り返りプリントの内容など）（50%）、筆記試験（50%）			
履修上の注意 主体的に学び、個人の学びを他者と交流することで多様な指導法の可能性を探求する意識を持つこと。			
実務経験の有無	無	実務経験	
実務経験を活かした教育内容			